

製品の輸出入の状況を知るためのオープンデータの一つに、財務省が公表している普通貿易統計があります。MDPRO ではこのデータを用いて、過去にも医療機器に関する輸出入の状況調査を行ってきました。薬事工業生産動態統計や上場企業から公表される IR データからも一定範囲の企業の輸出入や海外事業所の売上等の調査が可能ですが、普通貿易統計は我が国から輸出され又は我が国に輸入された貨物についての金額及び数量が品目別、国(地域)別等に財務省から翌月末には公表されるものであるため、その正確性、網羅性及び速報性の観点から、非常に有用なデータです。

昨年10月に発行した医機連通信第280号のミニコラムでは、普通貿易統計の品別国別表を用いて、2020年1月～8月の医療機器輸出金額について輸出先国毎の調査を行い、コロナ禍における影響を考察しました¹⁾。その時点から1年を経過しても、いまだコロナ禍が完全には終息していない現況において、本稿では少し視点を変えて、製品群ごとの輸出入の増減を2020年1月～2021年8月までの統計品別表^{2)、3)}の月報を(2019年1月～12月のデータも比較対象として)用いて調査いたしました。

普通貿易統計では輸出または輸入それぞれに別の9ケタの品目リストに沿って公表されていますが、上位4桁又はその下位も含めた6ケタのHSコードは共通です^{4)、5)}。このたびの調査に際して、表1に示したHSコードを医療機器の該当範囲と定めて集計することにしました。(水色背景としたHSコードには医療機器(医療材料)を含むものとして今回から追加した範囲です。)

表1：医療機器として集計対象としたHSコードと品目名称

HSコード	品目名称
30.05	脱脂綿、ガーゼ、包帯その他これらに類する製品
3006.10	外科用のカットガットその他これに類する縫合材、切開創縫合用の接着剤、ラミナリア、ラミナリア栓、外科用又は歯科用の吸収性止血材及び外科用又は歯科用の癒着防止材
3006.40	歯科用セメントその他の歯科用充てん材料及び接骨用セメント
3006.91	瘻造設術用と認められるもの
4014.10	コンドーム
4015.11	手袋、ミトン及びミット(外科用のもの)
9001.30	コンタクトレンズ
9001.40	ガラス製の眼鏡用レンズ
9001.50	その他の材料製の眼鏡用レンズ
90.04	視力矯正用眼鏡、保護用眼鏡その他の眼鏡
90.18	医療用又は獣医用の機器
90.19	機械療法用、マッサージ用又は心理学的適性検査用の機器及びオゾン吸入器、酸素吸入器、エアゾール治療器、人工呼吸器その他の呼吸治療用機器
90.20	その他の呼吸用機器及びガスマスク
90.21	整形外科用機器、補聴器その他器官の欠損又は不全を補う機器、人造の人体の部分及び副木その他の骨折治療具
90.22	エックス線、アルファ線、ベータ線又はガンマ線を使用する機器
94.02	医療用又は獣医用の備付品(例えば、手術台、検査台、病院用機構付きベッド及び歯科用いす)及び理髪用いすその他これに類するいすで回転し、傾斜し、かつ、上下するための機構を有するもの並びにこれらの部分品

このたび追加した【30.06】の分類は第30類『医療用品』の中にあり、その他の項には属さない医療用品としてリストアップされたもののうち、診断用試薬や造影剤、救急箱等を除いた医療機器、医療用材料が含まれると思われる細分類のみ抽出しました。また、【40.15】の分類は第40類『ゴム製品』の中にあり、「手袋、ミトン及びミット」の中の【4015.11】が「外科用のもの」という細分類であったため、追加したものです。また、【94.02】も厳密には医療機器のみとは言えませんが、近年の手術台や病院用ベッド等の進化にも注目していたため、調査対象として追加しました。

まず、今回の調査対象とする医療機器(表 1 に示した HS コードの範囲)全体の輸出及び輸入の月額の変動を図 1 に示します。普通貿易統計においては、輸出高は FOB(Free on Board=本船渡し)価格で、輸入高は CIF(Cost, Insurance and Freight=運賃保険料込み)価格で集計されています。

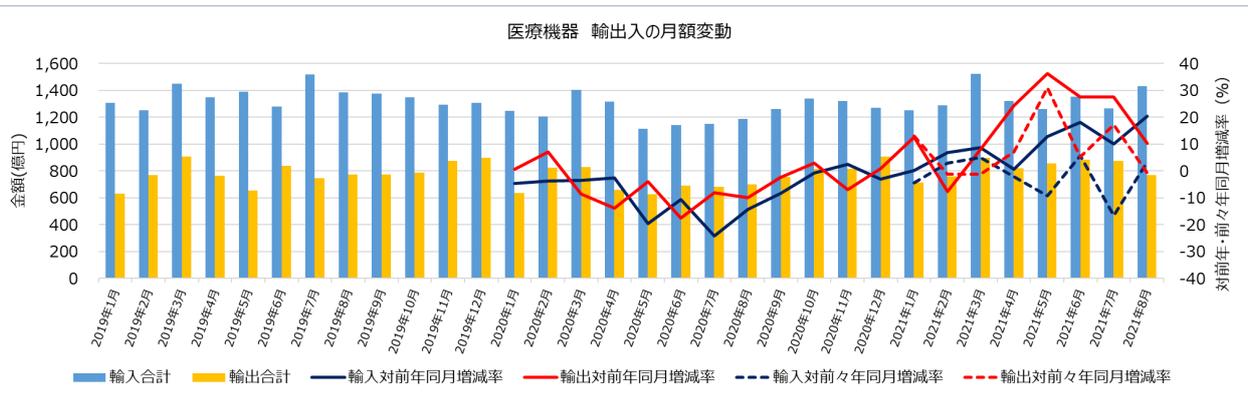


図 1：医療機器の輸出入の月額変動(表 1 の医療機器を対象として)

折れ線グラフ(実線)で対前年同月増減率(%)を示しました。輸入については 2020 年 1 月から既に前年同月を下回っており、11 月によようやく前年同月を上回り、輸出については 2020 年 3 月から前年同月を下回って、10 月に前年同月を上回っております。対前年同月比でみると 2021 年は当然ながら前年同月を上回る結果となっていますので、折れ線グラフ(点線)にて対前々年同月での増減率も示してみました。輸出についてはコロナ禍前の 2019 年と比べても増加傾向にありますが、輸入については低めに推移している傾向です。輸出入金額で見ると 2021 年 3 月に輸出輸入共に高いピークがありますが、対前年、前々年共に同月比は+10%未満であり、これは例年 3 月に見られる期末の売上増と推察されます。

次に、輸出・輸入各々の品目別の推移を四半期毎の月平均金額にて図 2、図 3 に示しました(図中、及び図タイトルにて四半期=Q と表記しました)。

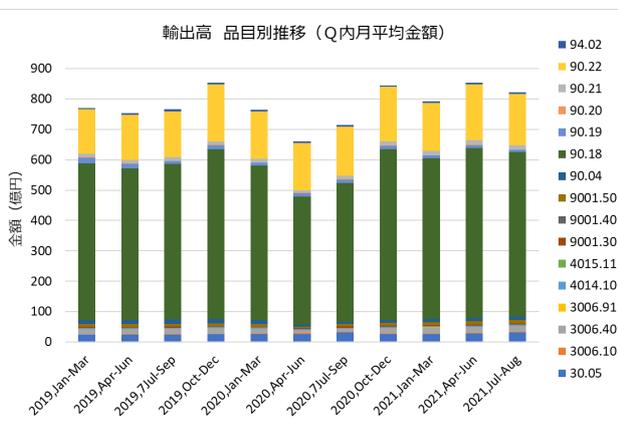


図 2：輸出高 品目別推移(Q 内月平均金額)

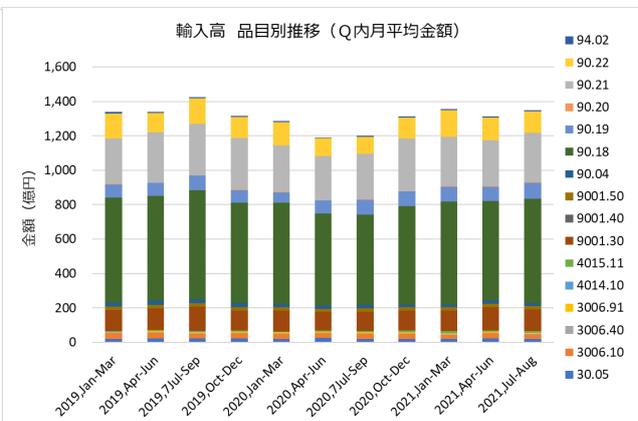


図 3：輸入高 品目別推移(Q 内月平均金額)

図 1 の月額変動と同様、増減はあるものの、各四半期において各製品群の占める比率にさほど大きな変動はなく推移していることが見て取れます。また、2020 年 1 月～12 月までの金額合計で輸入、輸出共に第 1 位を占めるのは当然ながら単価も高く品目数も多い【90.18：医療用又は獣医用の機器】(輸入額：6,654 億円、輸出額：5,848 億円)です。輸入では【90.21：整形外科用機器、補聴器その他(以下、略)】(3,288 億円)、【90.22：エックス線、α線、β線又はγ線を使用する機器】(1,391 億円)、【9001.30：コンタクトレンズ】(1,370 億円)及び【90.19：機械療法用、マッサージ用(中略)酸素吸入器、エアゾール治療器、人工呼吸器その他の呼吸治療用機器】(918 億円)と続きます。中でもコンタクトレンズは単独の細分類でこの順位ですので、その規模がわかるかと思えます。

一方、輸出においては2位以下、【90.22：エックス線、α線、β線又はγ線を使用する機器】(1,962億円)、【30.05：脱脂綿、ガーゼ、包帯その他これらに類する製品】(326億円)、【3006.40：歯科用セメントその他の歯科用充てん材料及び接骨用セメント】(174億円)、及び【90.21：整形外科用機器、補聴器その他(以下、略)】(133億円)と続きますが、1位と2位のみで、表1の範囲の輸出額の87%以上を占めるという結果でした。

ここで、医療機器と科学機器との区分が難しいため、表1の医療機器からは除外した分類のうち、コロナ禍でニーズの高まった温度計(医療用体温計以外も含む)や呼吸や血液の管理にも関連する流量計等が含まれると思われる分類について個別に取り上げてみます。表2にそのHSコードと品目名称を示します。また、図4~5にそれぞれの品目名称毎の輸出入高の推移を示します。

表2：注目の関連製品のHSコードと品目名称

HSコード	品目名称
90.25	ハイドロメーター、浮きばかり、温度計、パイロメーター、気圧計、湿度計、乾湿球湿度計
90.26	液体、気体の流量、液位、圧力その他の変量の測定用又は検査用の機器

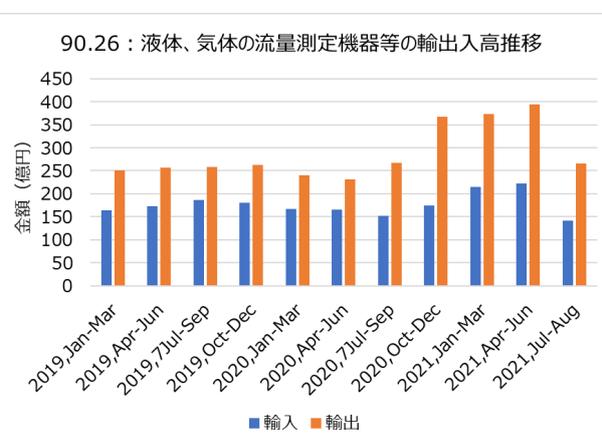
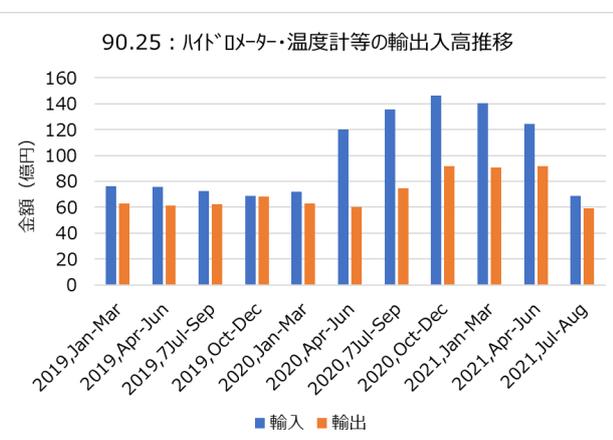


図4：温度計を含む品目の輸出入高の推移

図5：流量計を含む品目の輸出入高の推移

※図4及び図5の右端の2021.Jul-Augは2か月分、他は3ヶ月分の集計

図4の温度計を含む【90.25：ハイドロメーター、浮きばかり、温度計(以下、略)】の分類においては、2020年4月以降に輸入が大幅に上昇し、遅れて輸出も若干増加しています。図5の流量計を含む【90.26：液体、気体の流量、液位、圧力(中略)測定用又は検査用の機器】の分類においては、輸入よりも輸出が多いことが見て取れますが、特に2020年10月以降の輸出の伸びは気になるところです。これらはHSコードの4桁までで集計した結果ですので、さらに6桁まで細分化された分類で製品群等が特定できれば、増減の要因等が解明できるかもしれません。

さらに、今年度の「経済財政運営と改革の基本方針2021」(いわゆる骨太方針2021)⁶⁾において、「粒子線治療の推進」という項目が追記されたため、「粒子線治療機器」に関する調査も試みましたが、現在のHSコードの中に該当すると思われる品目名は見つけれませんでした。8543.10【粒子加速器】という分類があったため、輸出入の状況を見てみましたが、金額も低く医療機器としての分類には該当しないようです。今後、【90.18：医療用又は獣医用の機器】又は【90.22：エックス線、α線、β線又はγ線を使用する機器】の中に「粒子線を使用する機器」という分類が細分類として追加されるのではないかと、分析する立場から期待しています。

<まとめ>

今回の調査にて、2020年初から医療機器全体としては輸出・輸入の一時的な減少が見られ、コロナ禍の影響を受けているものと推察されました。2020年末から2021年にかけては、輸出・輸入共に

回復傾向にありますが、2019年をベースとすると輸入の戻り方は若干低迷気味といえます。今後、2019年のコロナ禍前の状況に戻っていくのか、それともニューノーマルな状況となっていくのかは、引き続き経過を見ていく必要があると考えています。

冒頭に述べた通り、普通貿易統計はその正確性、網羅性、速報性の観点から品目ごとの傾向分析がおこなえる有用なツールですが、一方で、医療機器を一括りにするHSコードは存在しないため、今回のような試行錯誤を続けていく必要があります。輸出入の状況を正確に把握するためにも、業種をまたぐ製品群や新規分野の製品群等のHSコードの細分化や新設等が適宜行われ、今後の産業分析にとってより一層有用なツールとなることを期待しています。

◇出典

- 1) (一社)日本医療機器産業連合会, MDPRO ミニコラム : 普通貿易統計 2020年1月~8月の医療機器輸出金額調査, 医機連通信280号, 2020/10/15,
<https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2021/06/%E3%83%9F%E3%83%8B%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0_20201015_%E7%AC%AC280%E5%8F%B7.pdf>
- 2) 普通貿易統計, 財務省 貿易統計,
<<https://www.customs.go.jp/toukei/search/futsu1.htm>>
- 3) 普通貿易統計(統計品別表), e-Stat(政府統計の総合窓口)
<<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00350300&tstat=000001013141&cycle=1&tclass1=000001013183>>
- 4) 輸出統計品目表(2021年度版, 2021年1月1日掲載),
<https://www.customs.go.jp/yusyutu/2021_1/index.htm>
- 5) 輸入統計品目表(実行関税率表, 2021年9月19日版, 2021年9月19日掲載)
<https://www.customs.go.jp/tariff/2021_09_19/index.htm>
- 6) 「経済財政運営と改革の基本方針2021」(骨太方針2021)及び「概要」(令和3年6月18日閣議決定)内閣府,
<<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2021/decision0618.html>>

(医療機器政策調査研究所 小濱 ゆかり 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ  [@JFMDA_MDPRO](https://twitter.com/JFMDA_MDPRO)
Twitterで医療機器産業に関連するニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。